

①科目名	教育方法・ICT活用(講義)	②科目ナンバー	LA-TT0115-Wt	③担当者名 (実務経験名)	佐長 健司	
④履修期	2年 前期または集中講義		⑤卒業単位			
⑥免許・資格	中学校教諭二種(国語・音楽)必修、司書教諭必修、栄養教諭二種必修 2単位					
⑦授業概要	状況学習論、実存の理論的立場から、教育にとって方法とは何かと問いながら、教育課程の開発、授業の開発、学習評価の開発について考察する。また、情報機器、および生成AIの活用についても常識を疑い、批判的に考察する。					
⑧ 到達目標	知識・理解	状況学習論、実存の理論的立場から、教育にとっての方法についての問いを練り上げる。				
	思考・判断	教育課程の開発、授業の開発、学習評価の開発について実践的に考え、判断する。				
	態度・興味・意欲	情報機器、および生成AIの活用について興味や関心をもつとともに、疑うようにする。				
	技能・表現	学習成果を生かし、教育方法についての自己の意見をレポートとしての確に表現する。				
⑨ 授業計画	ア) 授業内容		イ) 事前事後学習内容(予習・復習)		ウ) 時間 (時間/週)	
	1	オリエンテーション・成績評価について	シラバスを読み、自己の学習課題をメモ。		4	
	2	状況行為論・正統的周辺参加から考える教育方法	教育原理・教育内容論の復習と発展学習。		4	
	3	実存論から考える教育方法	教育原理・教育内容論の復習と発展学習。		4	
	4	教育課程開発の方法	国語あるいは食育の年間計画持参の準備。		4	
	5	教育課程開発の実際	簡単な教育課程表の原案を作成。		4	
	6	授業開発の方法	教育原理・教育内容論の復習と発展学習。		4	
	7	授業開発の実際	国語あるいは食育の学習指導案の作成。		4	
	8	授業研究の実際(簡単な模擬授業の実施も含む)	教職概論の復習と発展学習。		4	
	9	真性の評価とその開発の方法	教育原理・教育内容論の復習と発展学習。		4	
	10	真性の評価の実際(模擬的な学習評価実践)	評価したい児童・生徒の作文等の持参準備。		4	
	11	ICT・生成AIの活用(持参した資料の発表を中心に)	学校現場の活用についての資料持参準備。		4	
	12	生成AIとの対話(情報処理室のパソコンを活用し)	実際に生成AIを活用し、そのデータを持参。		4	
	13	ICT・生成AIの限界と活用の適正化	ICT・生成AIの活用の批判的考察をメモ		4	
	14	講義内容と自己の学習の振り返り	自己の学習成果と課題をノートに記述する。		4	
	15	成績評価のためのレポート作成の準備	レポートの構成メモを作成する。		4	
⑩ 成績評価方法		知識・理解	思考・判断	態度・興味・意欲	技能・表現	評価割合
	筆記試験					
	レポート	○	○		○	40%
	課題					
	実技					
	受講態度			○	○	20%
その他(ノート)		○	○	○	40%	
⑪フィードバックの方法	毎回の講義の冒頭で前回講義の内容をフィードバックする。					
⑫教科書	講義資料を配付し、受講生各自が収集して持参した資料を活用する。教職概論、教育原論、教育内容論の講義資料も持参。					
⑬参考書	小中学校学習指導要領。教育方法に関する文献。					
⑭アクティブ・ラーニング	必要に応じて、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等を行うので、積極的に活動してほしい。					
⑮ICT活用	予習・復習において情報機器を活用して情報収集を行うとともに、講義においてもパソコン等を使用する。					
⑯メッセージ・備考	毎回の講義に即して必ず予習・復習を行い、資料を収集するとともに、ノートにできるだけ多くのメモと記述をしてほしい。					
⑰関連科目	すべての教職専門科目。					